

SEED (シード)

Vol.031
2025.9月

複数プロジェクトで学外でのフィールドワークが行われる等、活動が本格化してきました。今号では、6つのプロジェクトから寄せられた活動報告をご紹介します。

【まちづくり・地域づくり部門】文学部 李 妍焱 先生プロジェクト 3日間にわたって石川県を訪問し、現地調査を行いました！

**活動テーマ 駒大生が駒沢のまちづくりにおけるコモンズ形成にどう貢献できるか
—駒沢こもれびプロジェクトへの参与観察を通して**

私たちは、今回9月1日から3日にかけて、石川県での合宿を実施しました。今回の合宿では、連携先の「駒沢こもれびプロジェクト」で浮き彫りになったテーマ「市民主体はどうすれば実現できるのか」を探るため、3つの事例を現地調査しました！

まず、「おんせん図書館みかん」では、市民が主体的に運営することで、自己表現と交流の場が生まれていました。

次に、「九谷焼美術館」では、伝統工芸を未来に継承するため、市民とプロが協力し、多様なイベントを企画していました。

最後に、文化財「蘇梁館」では、ボランティアによる柔軟な発想が、新しい地域活動につながる過程を学びました。

これらの学びを踏まえ、9月24日には「オープンゼミ」を開催し、石川県の事例実践者とももれびスタッフとの対話を予定しています！

また、社会連携プロジェクトの成果として、駒沢大学駅構内でのポスター掲示に向けた制作も進んでいます。日頃から駅を利用する地域の方々への感謝を伝えるコンセプトで、9月16日から掲載がスタートしています！



▲九谷焼美術館にて



▲駒沢大学駅構内ポスター

【SDGs部門】経営学部 村山 元理 先生プロジェクト 長野県の3つの企業を訪問し、研究活動を進めました！

活動テーマ 幸せ創造企業を実現するには

9月9日、「幸せ企業創造プロジェクト」の一環として、長野県に本社を置く伊那食品工業様を訪問しました。自然豊かな緑に囲まれ、職場環境においても従業員の営みを充実させようという会社の理念が色濃く表れており、快適さを追求するといったモットーについて深くお話しいただきました。会社と従業員が補い合う幸せの形を目の当たりにし、今後の研究に刺激を与えるものとなりました。



次の日、ファーマン様を訪問しました。農業を中心に様々な事業展開をされていて、非常に魅力的な企業でした。案内してくださった方も気さくで面白い方でした。



最後に、歴史ある和菓子店・金精軒を訪問しました。代々続くお店で、街並みに趣がありました。社長のお話を聞く中で会社を続けていくことはとても難しいのだと感じました。



これら一連の訪問を通じて、企業の幸せについて多面的に学ぶことができ、今後の研究を進める上で、大変貴重な経験となりました。

【SDGs部門】経営学部 青木 茂樹 先生プロジェクト 連携先企業への訪問、古着回収の企画を実施しました！

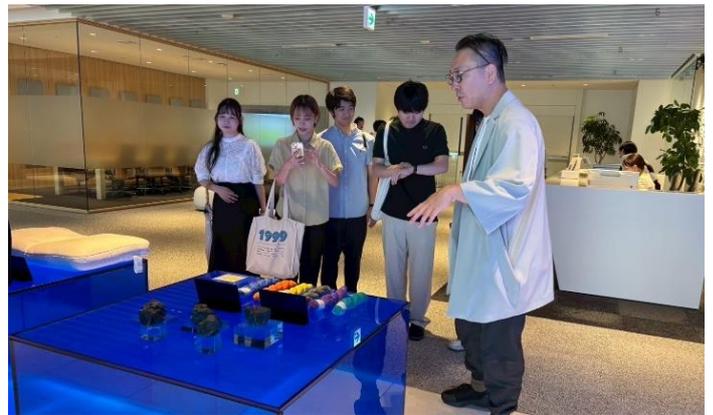
活動テーマ 幸せサステナブル・アクション・プロジェクト (SAP) の 広域展開によるサーキュラー・エコノミーの訴求

○Green Sports (回収ペットボトルキャップを利用したスポーツ用品の製作)

東京ミッドタウン八重洲セントラルタワーに本社を構える三井化学株式会社を訪問し、松永さんにお話を伺いました。三井化学は、総合化学メーカーとして多岐にわたる事業分野を展開している企業です。先生とのご縁もあり、今回のプロジェクトにご参加いただくこととなりました。

これまでプロジェクトはオンライン会議を中心に進めてきましたが、今回直接お会いできたことで、より一層プロジェクトの前進を実感することができました。

12月にプロジェクトを成立させることを目標に、今後もこのご縁を大切にしながら、さらなる成果につなげていきたいと思っております。



○駒コレ (サステナブルなファッションショーの開催)

先日、ブラックラムズ様・RICOH様と会議を行い、「howよりwhat」という視点でご助言をいただきました。今月はワークショップも予定されており、学びを深める機会にしたいと考えています。

古着の回収状況や制作物についても意見交換を行いました。おかげさまで回収BOX約4つ分の古着が増えておりご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

後期中にもう一度回収の機会を設けたいと考えておりますので、その際もぜひご協力いただけますと幸いです。



横は、「無駄を持たず、今を生きる」ことを大切にします。派手さではなく、静けさと本質。派手さではなく、静けさと本質。私たちが暮らすにふさわしいものという意識。私たちが暮らすにふさわしいものという意識。私たちが暮らすにふさわしいものという意識。私たちが暮らすにふさわしいものという意識。

再生は美しい
—あなたの古着を捨ててください—

日時：6月13日(金)～7月21日(月)
場所：3号館2階入口付近
セブンイレブン横の給湯器

経営学部青木茂樹
駒コレ

詳しくはInstagramまで

【SDGs部門】医療健康科学部 村田 渉先生プロジェクト

様々な年代を対象として放射線教育講座を実施、学会発表も行いました！

活動テーマ RED-RINGプロジェクト ：持続可能な放射線教育の深化と波及

7月24日に開催された東京都立江北高等学校との交流会では、放射線防護カードゲームを用いた実践講義を行いました。

7月30日には、「夏休みこどもアカデミー公開講座」にて、小学生に向けて同じカードゲームを実施しました。

同じ教材でも年代に応じて内容や進め方を工夫し、高校生・小学生の双方に楽しく学んでもらうことができました。

また、8月5日には、環境省ぐるぐるプロジェクト福島メッセンジャーズ、世田谷区と共催で小学生を対象にSTEAM教育講座を行い、カードゲームを通じて放射線に関する知識や考え方を共有しました。子供たちが楽しみながら学ぶ姿や交流を通じて、私たち大学生にとっても貴重な経験となりました。



8月6日には、駒澤大学高等学校と連携し、大学生と高校生が協力して中学生に教える形で「放射線量ブラックジャック」を実施し、主体的な学びの場を提供することができました。

さらに、8月30日には放射線教育学会において、修士課程2年の工藤樹広、同1年の関口颯太、学部4年の藤井美波、同4年の瀬出井紅葉の4名が開発教材の効果評価に関する発表を行いました。学会発表を経験するだけでなく、他大学の学生や先生方の発表を聞き大変充実した経験となりました。

これらの取り組みは、単なる学術的成果にとどまらず、RED-RINGプロジェクトの啓発活動にも繋がっており、放射線リテラシー向上に向けた社会的な広がりを実感する機会ともなりました。



【産学官連携部門】経済学部 大前 智文 先生プロジェクト

岐阜県岐阜市での企業訪問・ヒアリング、報告会・ワークショップを実施！

活動テーマ 駒大生と中小企業家との連携から

「令和における『人を生かす経営』」のあり方を探る

9月2日・3日に、岐阜県岐阜市において「令和における『人を活かす経営』」の知見を深め、中小企業経営の現場における課題を理解するために、先進的な取り組みを実践する中小企業への訪問・ヒアリング、学生と中小企業経営者とは語り合う報告会・ワークショップを実施しました。本企画で得られた成果は、後期プロジェクト活動へのスタート地点となります。

■企業訪問・ヒアリング調査

株式会社CQオーム様

無線機器の販売業を営む株式会社CQオーム本社に伺いました。CQオームは「『命令』ではなく『説得』で動く会社」をモットーとして、一日7時間労働、年間休日130日を実現する、生産性の高い中小企業です。

衰退・縮小傾向が続くアマチュア無線業界の中で「最後まで残る会社」として、徹底的に合理化された働き方・考え方を学びました。



有限会社ウメイチ（プラム 岐阜六条店）様

貸衣装と美容・着付け・写真撮影を一体で展開する有限会社ウメイチのプラム岐阜六条店に伺いました。「社員が長く働ける会社」をモットーとして多様な働き方を提供する経営のあり方を学びました。

記念日を華やかに彩ることをプロデュースする業種・業界だからこそ、それを支えるスタッフの人生設計やライフプランに寄り添うことの必要性や大切さを学びました。



岐阜県中小企業家同友会様

岐阜県中小企業家同友会は、中小企業家が自主的に参加し、手作りの運営を心がける、「社長の学校」のような組織（任意団体）です。本プロジェクトの社会連携先として、岐阜での受け入れ態勢を整備してくださいました。

また、中小企業の人材確保・育成という課題について、駒大生（若者）との交流から会員経営者の意識をアップデートしたいという要望を伺いました。



■報告会・ワークショップ

『稲盛和夫の経営問答 人を生かす 新装版』（日本経済新聞出版、2014年）の検討報告

プロジェクトでは「経営の神様」と呼ばれる稲森和夫氏の『人を生かす』を輪読し、そのエッセンスを抽出するとともに、内容が現代においても通じるかどうか検討しました。

ワークショップ前半では、学生側から検討・気付いた内容を報告し、後半のワークショップへの入り口としました。



「『人を生かす』という切り口から、中小企業における採用と若者の就職のマッチング（ミスマッチの解消）の可能性を探る」ワークショップ

後半ではテーブルを移動し、「中小企業における採用と若者の就職のマッチング」をテーマとして、意見交換会を実施しました。

和気藹々とした雰囲気の中で、経営者と駒大生の双方から、企業経営の現実と本音、就職活動に対する期待と不安が飛び交い、相互理解と課題把握に結実しました。



■今後のプロジェクト活動に向けて

今回の企画は多様な中小企業のあり方に直接触れる貴重な機会となりました。これまで学んできた机上の理論が生き生きとした現実から裏付けられるとともに、修正が必要となる部分も多々あることが分かりました。そして、自分自身の世界観が大きく拡張し、「正解は一つではない」ことを認識・理解することが出来ました。

今後のプロジェクトでは、ワークショップで得られた課題「中小企業における採用と若者の就職のミスマッチ」の解消に向けて、関東圏でのフィールドワークから「人を生かす経営」の事例分析を進めたいです。



【まちづくり・地域づくり部門】経済学部 松本 典子 先生プロジェクト
3つの連携先を訪問し、映像制作に向けた準備を進めました！

活動テーマ 世田谷のコモン・スペースを発信するコンセプト映像制作

6～7月にかけて、「世田谷のコモンスペースを発信するコンセプト映像制作」プロジェクトの制作対象となるタタタハウス、学び舎トーカ、HOME/WORK VILLAGEを訪れ、コモンスペースを、グループごとに複数回見学させていただくと共に、制作するムービーのイメージをしっかりと共有する作業を行いました。

秋から撮影と編集に入ります。



▲写真左上から時計回りに、
タタタハウスにて、
学び舎トーカにて、
HOME/WORK VILLAGEにて



- 今年度の駒大生社会連携プロジェクトについては、[令和7年度「駒大生社会連携プロジェクト」](#)をご覧ください。
- 駒澤大学の社会連携に関する最新情報は、[社会連携センターのホームページ](#)のほか、社会連携センターSNSでも発信中です。フォローよろしくお願いします！
[X \(@koma_collabo\)](#) [Instagram \(koma_collabo\)](#)